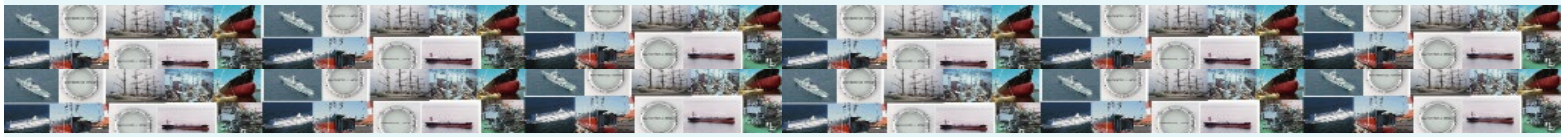
Japan Shipbuilding Digest

No.86



トピックス

発行日: 2026(令和 8)年 9 月 17 日

発　行: 一般社団法人日本造船工業会

大島造船所　*Oshima Shipbuilding*

V･ファーレン長崎とプレミアムパートナー契約を締結

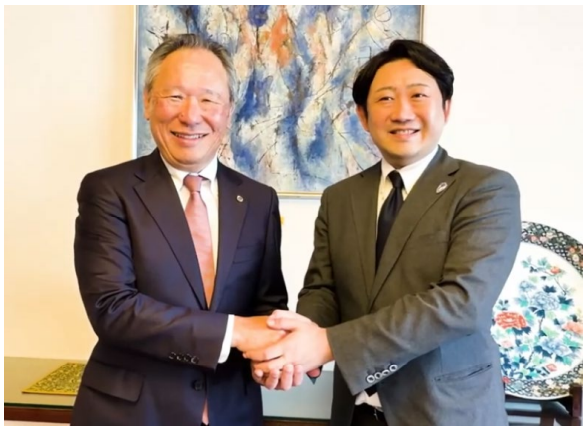
当社は、プロサッカークラブ(J1リーグ所属)株式会社 V･ファーレン長崎と 2028/29 シーズンまでのプレミアムパートナー契約を締結しました。今シーズンから V･ファーレン長崎のユニフォームに当社社名が表示されます。

7 月 3 日には、2026/27 シーズン決起集会が長崎市のハピネスアリーナで開かれました。冒頭、V･ファーレン長崎側から当社がプレミアムパートナー契約を締結し、ユニフォームに当社社名のロゴが表示されることが発表されると、会場ではファン･サポーターからの拍手が響きわたりました。



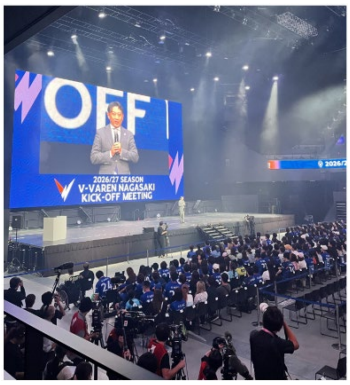
【ユニフォームにプリントされた当社ロゴマーク】

その後、当社の山口眞社長からのビデオメッセージが紹介され、「私たちが建造した船は、世界の七つの海を、休むこと無く航海しています。そして、V･ファーレンの VAREN(ファーレン)の意味も航海という意味だと聞いています。当社はユニフォームパートナーとして、当社の建造船同様、V･ファーレンさんを愛情と誇りをもって、J1 リーグという広大な海原に送り出したいと思います」というメッセージが流れると、会場内の熱気はさらに盛り上がりを見せていました。



【山口社長と V･ファーレン長崎の田河社長】

V･ファーレン長崎の田河毅宜社長は、「長崎を代表する造船業の大島造船所が仲間に加わるのは、本当に大きな力になり、嬉しく思う」と力強く語っていました。



【V･ファーレン長崎　田河社長ご挨拶】



【大島造船所は V･ファーレン長崎を応援しています】

今治造船　*Imabari Shipbuilding*

今治造船、ローイングチームが小学生向け体験会を開催

今治造船ローイングチームは 7 月 23 日、小学生を対象とした「屋内ローイング教室」を今治市営スポーツパークで開催しました。本教室は、NPO 法人今治しまなみスポーツクラブ主催「朝倉 BG 里山にぎわい塾」の一環として実施したもので、今年で 13 回目となります。

当日は、小学 1 年生から 6 年生までの 20 名が参加し、ローイング競技の特長や基本動作について学んだ後、エルゴメーター(ローイングマシン)を用いた体験に挑戦しました。

初めて競技に触れる子どもたちも、部員による丁寧な指導を受けながら、次第に安定感のある力強いフォームを身につけていきました。また、昨年に続いて参加した子どもたちは、成長を感じさせるダイナミックな漕ぎを披露してくれました。

教室の最後には、現役部員も加わったチーム対抗レースを実施し、会場は大きな歓声に包まれました。さらに、実際に競技で使用しているボートやオールにも触れていただき、ローイング競技への理解と関心を深める機会となりました。

参加した子どもたちからは、「楽しかった」「また挑戦したい」といった声が多く寄せられ、ローイングの魅力やスポーツの醍醐味を体感いただける有意義な教室となりました。

今治造船ローイングチームは、競技力の向上に加え、地域貢献や次世代育成にも積極的に取り組んでいます。今後も、地域の皆さまとのつながりを大切にしながら、親しまれ応援されるチームを目指して活動を続けてまいります。



【小学 1 年生から 6 年生までの 20 名が参加】

ジャパン マリンユナイテッド Japan Marine United

JMU、うみ博 2026 で船づくりの魅力を発信

JMU は 8 月 8 日、9 日に横浜市で開催された体験型イベント「うみ博 2026」に特別協賛し、船づくりや海事産業の魅力を伝えるさまざまな企画を実施しました。うみ博 2026 には過去最多となる 74 団体が参加し、海に関わる仕事や技術を紹介する展示や体験プログラムが展開されました。

JMU ブースでは、VR 溶接シミュレーターを活用した溶接体験や、クイズ形式で船づくりを学べる展示、ブロック建造法をテーマとしたワークショップを実施しました。実際の造船所で活用されている技術や工法に触れることができる体験型コンテンツを通じて、来場者に船づくりを身近に感じていただきました。

また、JMU の作業服とヘルメットを着用して記念撮影ができるフォトブースも設置しました。JMU 呉事業所で建造し、「シップオブザイヤー」も受賞した 24,000TEU 型コンテナ船と一緒に、多くの子どもたちが造船技術者になりきって撮影を楽しみ、船づくりへの関心を深める機会となりました。

さらに、今年初の企画として「JMU 造船所ツアー」を開催しました。参加者はフェリーから JMU 横浜事業所鶴見工場を見学し、造船所のスケールや迫力を海上から体感するとともに、修理工事中の南極観測船「しらせ」を間近に見る貴重な機会となりました。

JMU は今回の出展を通じて、未来を担う子どもたちや学生の皆さんに船づくりの面白さや海事産業の役割を発信しました。今後もさまざまな機会を通じて、海事産業への理解促進と次世代人材の育成に取り組んでまいります。



【JMU の作業服とヘルメットを着用し、24,000TEU 型コンテナ船と一緒に記念撮影を楽しむ子どもたち】



【JMU 造船所ツアーに参加し、船上から南極観測船「しらせ」を間近に見学する皆さん】

常石造船 *Tsuneishi Shipbuilding*

常石造船のロングセラー“TESS”シリーズが累計 600 隻竣工を達成！
—40 年にわたり進化を続けるエコシップ—



【TESS シリーズ累計竣工 600 隻目となる TESS64 AEROLINE “DORIC FLAME”】

常石造船は、フィリピンの造船拠点である TSUNEISHI HEAVY INDUSTRIES (CEBU), INC.(以下、THI)において、ロングセラーを続けるエコシップばら積み貨物船“TESS”シリーズの 600 隻目となる「DORIC FLAME(ドリック・フレイム)」を、2026 年 2 月 3 日(火)に引渡しました。

“TESS (Tsuneishi Economical Standard Ship)”シリーズは、その名称が示す通り、燃費性能に優れた経済性と汎用性の両立を実現することで、1984 年の 1 番船竣工以降お客さまに長く愛され続けている当社を代表するブランドです。

ハンディマックス・バルカーの主流が 3 万 6,000 重量トンだった時代に、他社に先駆けて 4 万重量トン型の TESS40 を市場に投入し、欧州を中心とした船主に評価されマーケットを広げていきました。またそれまで造船業界で一般的であった「オーダーメード」型の生産を、市場調査に基づき“標準船型”を策定することで「レディーメード」型に変え、造船所がスタンダードモデルを取り揃えてお客さまの用途に合わせてソリューションを提案するというビジネススタイルを確立する革新性を備えていました。

その後 TESS45、TESS52、TESS58 などバリエーションを増やし、2019 年 11 月には竣工 500 隻目を達成。600 隻目となる本船は丸みを帯びた流線形状船首が特徴となる“TESS64 AEROLINE”(6 万 4,000 重量トン型ばら積み貨物船)で、従来型比 10%の風圧抵抗低減を実現しています。加えて、エンジンの燃焼効率を向上する FAIS*や電子制御エンジンの搭載で燃費性能を高め、従来の TESS58 に比べて燃費効率が約 20%向上しています。環境性能と経済性を高い次元で両立することで、脱炭素化が進む海運業界においても、お客さまの価値向上に寄与いたします。

〈常石造船 代表取締役社長執行役員 奥村幸生のコメント〉
「このたび、当社の代表的なばら積み貨物船である“TESS”シリーズが、フィリピン・THI において 600 隻目という大きな節目を迎えられたことを、大変誇りに思います。1984 年以来、TESS シリーズは“経済性と汎用性を備えた標準船型”というコンセプトのもと、お客さまの声と市場ニーズに真摯に向き合いながら進化を重ねてまいりました。その歩みの積み重ねが、40 年以上世界中の船主の皆さまに選ばれ続けてきた理由だと考えています。
常石造船はこれからも、長く愛され、信頼される船づくりを通じて、世界の海上輸送を支え続けてまいります。」

*FAIS (Fresh Air Intake System):エアダクトにより船外から直接外気を取り込みエンジンの燃焼効率を高める給気方式。従来方式と比べエンジンの給気温度を 10 度程度下げる効果がある。

■竣工 600 隻目の本船概要

船　　名:DORIC FLAME(ドリック・フレイム)
建 造 場 所:TSUNEISHI HEAVY INDUSTRIES (CEBU), INC.
船　　主:DORIC FLAME NAVIGATION INC.
船　　種:ばら積み貨物船(TESS64 AEROLINE)
全　　長:約 200m
幅 (　型　):32.26m
深 さ(　型　):18.6m
載貨重量トン数:約 63,300MT
総 ト ン 数:約 36,000





【TESS シリーズ累計竣工 600 隻目となる TESS64 AEROLINE “DORIC FLAME”】

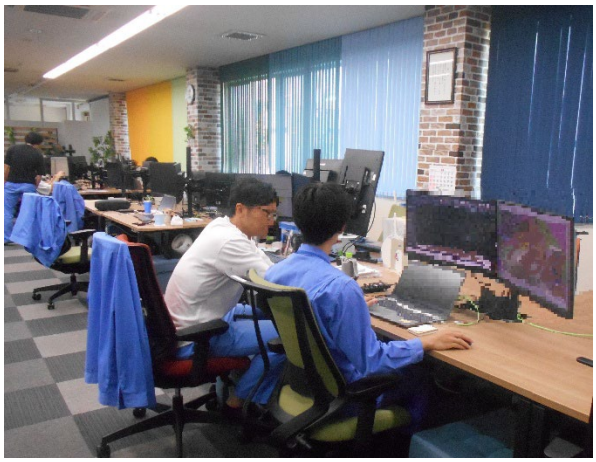
三菱重工業 *Mitsubishi Heavy Industries*

最前線のものづくりを体感！
エンジニア部門のインターンシップを実施しました

三菱重工グループの三菱造船では、8 月 19 日(水)から 8 月 28 日(金)に技術系 MHI SUMMER INTERNSHIP を実施し、全国から多くの学生にご参加いただきました。設計部門や生産技術部門などの最前線で活躍するエンジニアとともに、実務に近い課題に取り組みながら、技術者として必要な視点や考え方を学べることが本インターンシップの大きな特徴です。

初日は下関造船所に集合し、普段は見ることのできない船の建造現場を見学しました。その後の実習では実際の職場に配属され、社員のサポートを受けながら、それぞれのテーマで課題解決に取り組みました。最

終日に行われた成果発表会では、学生ならではの柔軟な発想や新しい視点が数多く見られ、社員にとっても新たな気づきを得られる機会となりました。





【実習の様子】

（参加学生の感想）

- 授業では習うことのない最先端の技術動向を知ることができ，就活で自分の希望を決める際に参考になると思いました。
- 実際に社員の方とコミュニケーションを取りながらリサーチを進めていったので、社風を直に感じることができたことが良かったです。

三菱造船は今後も、学生の皆様にとって将来のキャリアを考えるきっかけとなり、船づくりの面白さや技術者として働く魅力を体感していただける機会を提供してまいります。

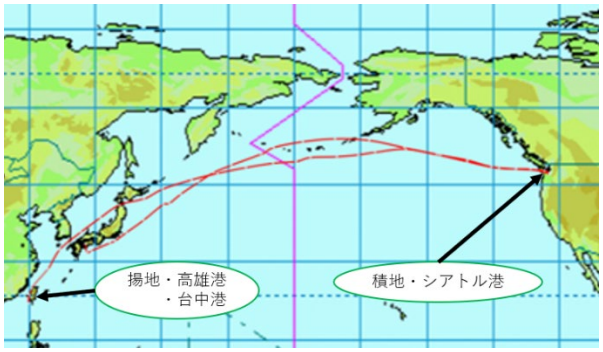
新来島サノヤス造船 *Shin Kurushima Sanoyas Shipbuilding*

【1】体験乗船記

2026 年 3 月 11 日に当社水島製造所にて引き渡した「HAPPINESS DIVA」での体験乗船について紹介します。

本船は載貨重量 82,000トン型のバルクキャリアであり、新共通構造規則（CSR-B&T）や NOx（窒素酸化物）、SOx（硫黄酸化物）排出規制などの環境規制に対応するとともに、クラス最高水準の燃費性能を有する最新のエコシップです。今回、本船の運航や積地・揚地での荷役作業の見学を含む実航海を体験するとともに、乗組員とのコミュニケーションを通じて英会話能力の向上を図ることを目的に、乗船する機会をいただきました。

乗組員は総勢 20 名で、全員がフィリピン国籍です。私は当社水島製造所を出航後、アメリカのシアトル港でトウモロコシを積載し、その後台湾の高雄港および台中港で揚荷を行う約 2 か月間の航海に参加しました。





【乗船中の航路（上）と積荷風景（下）】

長期にわたる海上生活は今回が初めての経験であり、急激な気候変化や高波による船体の揺れ、時差や日付変更への対応など、船上特有の環境に適応する難しさを実感しました。一方で、船上で目にするものすべてが新鮮であり、乗組員と英語でコミュニケーションを取りながら各種業務やトラブル対応に携わった経験は、大変貴重なものとなりました。

また、休日には映画鑑賞やカラオケ、誕生日会などを通じて乗組員との交流を深めることができました。フィリピン文化への理解も深まり、異文化に触れる良い機会となりました。乗組員の明るく協力的な姿勢と社内関係者のサポートのおかげで、2 か月間の体験乗船を安全かつ有意義に終えることができました。



【船内でのカラオケの様子】

今回の体験乗船を通じて、船の使い勝手の重要性を改めて認識しました。特に船内の通気性や通路幅、機器・家具の配置など、乗組員が日

常的に使用する設備に対しては、想像以上に高い関心が寄せられていることを実感しました。これまで私は性能や工作性といった観点から船を見ることが多くありましたが、実際に船上生活を体験したことで、利用者である乗組員の視点に立った船づくりの重要性を学ぶことができました。

さらに、船上生活や航海を通じて多くの知識や経験を得られたことに加え、日常生活ではなかなか味わうことのできない雄大な自然や美しい景色に触れられたことも、非常に印象深い経験となりました。

今回の体験乗船で得た知識や気づきを今後の業務に活かし、顧客や乗組員から信頼される船づくりに貢献していきたいと思います。

【2】造船所の１日の仕事

新造船営業課　２年目

私が所属する新造船営業課の一日は、受注担当者や船主監督から届くメールの確認と返信から始まります。



午前中は、建造許可や各種申請書類の作成を行うほか、社内の設計部門や製造部門との調整業務に取り組みます。また、建造中の船舶で課題が発生した際には、関係部署と連携しながら窓口として対応しています。

午後は、就航船からの問い合わせ対応や船主監督からの要望整理など、引き続き各種調整業務を進めます。それと並行して、命名式や引渡しに向けた準備も行い、式典の進行や関係部署との連携について細かな打ち合わせを重ねています。

会社全体で力を合わせて造り上げた一隻の船を、無事にお客様へ引き渡す瞬間は、この仕事ならではの大きなやりがいです。また、海外のお客様や関係者が来所される機会も多いため、今後は英語力の向上にも力を入れ、さらに活躍の幅を広げていきたいと考えています。

機電設計課　２年目

私が所属する機電設計課の電気グループでは、機関室内の発電機を起点として、船内の航海機器や動力設備、照明設備などへ電力を供給するための配線計画をはじめ、電気設備の手配や仕様調整を担当しています。



日々の業務では、図面作成や社内外での打ち合わせ、メーカーや現場との調整などを行っています。電気計画は自由度が高く、船全体を見渡しながら設計を進める仕事です。そのため、設計を完了した際には、「自分がこの船の設計に携わった」という大きな達成感を得ることができます。

一方で、扱う機器や図面の種類が多く、高度な専門知識が求められることに加え、限られた工程の中でさまざまな検討を行わなければならない点に、この仕事の難しさがあります。

現在は入社 2 年目で、まだ先輩方の力を借りながら業務を進めることも多いですが、将来は一人で一隻の船を担当できるよう、積極的に新しい仕事へ挑戦し、経験を積んでいきたいと考えています。

外業課　１年目

私が所属する外業課では、前工程である内業から引き渡された船殻ブロックを組み立て、つなぎ合わせる業務を担っています。



ドックでブロックを組み上げ、船舶全体の形を作り、水上に浮かぶ段階までを担当する重要な工程です。私たちは溶接や足場、搭載といった各職種と連携しながら、ブロック配置計画や工程管理、検査対応、安全管理などを行っています。

現場で働く職人の皆さんが安心して作業できるよう、先を見据えながら工程を調整することも大切な役割です。多くの人と関わりながら仕事を進めるため、人として成長できることにやりがいを感じています。

将来は、起こり得る問題を先読みして対応できる経験と判断力を身につけ、現場に安心感を与えられる存在になりたいと考えています。

名村造船所　Namura Shipbuilding

海外語学留学記

「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」へ

株式会社名村造船所では、グローバルに事業を展開する企業として、海外のお客様や取引先との業務に対応できる人材の育成に積極的に取り組んでいます。「社内英会話教室」や「社外マンツーマン講座」「通信教育補助」など人気の各種英会話教育支援施策に加えて設けているのが「海外語学留学制度」です。この制度は、職員の語学能力を高めるだけでなく、海外の経済・風土・文化、さらには海運・造船事情などへの理解を深めることで、会社全体の海外対応力を高めることを目的としています。留学先は原則として英語を第一国語とする国の語学学校等とし、英語力の習得とともに、海外で生活し、多様な文化や価値観に直接触れることも重要な学びと位置付けています。

留学する職員は、約半年間にわたって通常業務から離れて語学学習に専念できる環境を整えています。当社の教育訓練では、職員一人ひとりの資質向上が当社の発展にもつながるものと位置付け、業務に必要な知識・技術・技能を計画的、継続的に身につけることを基本としています。海外語学留学も、こうした人材育成の一環として実施しているものです。

今回の派遣先であるイギリスの語学学校には、ヨーロッパ、南米、中東、アジアなど、世界各国からさまざまな年齢や背景を持つ学生が集まります。授業では、文法や語彙、リスニング、スピーキングなどの基礎的な英語学習に加え、ペアワークやディスカッションなど、自分の考えを英語で伝えることが求められます。日本語に頼ることのできない環境の中で、単に知識として英語を学ぶのではなく、実際に英語を使いながらコミュニケーションする力を身につけていきます。実際に今回の派遣者からも、「英語で意見を述べる機会が多く、初めは苦労したものの、英語漬けの環境の中で自然と慣れていった」との声が寄せられています。語学学校では、週 32 レッスンを基本として、コミュニケーション、文法、語彙、発音など幅広い内容を学ぶプログラムが設定されています。

また、学びの場は教室だけではありません。ホームステイや学生寮での生活、世界各国から集まった学生との交流など、日常生活そのものが異文化コミュニケーションの機会となります。

文化や生活習慣、考え方の異なる相手と生活し、自分の意思を伝え、相手の考えを理解する。その経験を通じて、英語力だけでなく、多様な価値観を受け入れる力や、自分の意見を伝える力、環境の変化に対応する力を身につけ「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学ぶ」ことができることが、この留学制度の大きな特徴です。

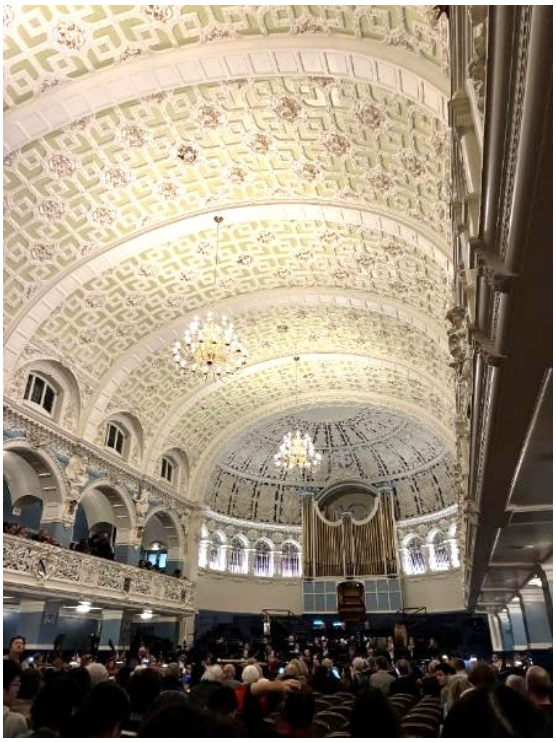
2025 年 10 月から 2026 年 3 月までの約半年間、技術系職員 3 名をイギリスへ派遣しましたので、現地で感じたことや、そこで得た学びについてご紹介いたします。

派遣者からの声

造船設計部　勤続 8 年

留学中の半年間、完全に実務を離れ、伝統ある学術都市オックスフォードでの語学習得に専念しました。学校には世界各国から学生が集まり、授業だけでなく日常生活でも常に英語を使う環境でした。学生寮では、文化や生活習慣、常識の異なる学生と一緒に生活し、最初は自分の意思をうまく伝えられず、もどかしさを感じることもありましたが、お互いに意見を伝え合いながら生活する中で、徐々にコミュニケーションへの壁がなくなっていきました。特に印象に残ったのは、単に英語を話せるようになるだけでなく、多様な価値観を持つ相手に自分の考えを伝え、相手を理解しながら信頼関係を築くことの大切さです。語学のスキルアップだけではなく、自分自身の視野を広げる貴重な経験になりました。

帰国後は、留学で身につけた語学力に加え、英語学習のノウハウや異文化理解の経験を生かし、周囲の設計部員へのサポートなどにも役立てていきたいと思います。



【オックスフォードタウンホールで音楽鑑賞(オックスフォードフィルハーモニー管弦楽団)】

品質保証部　勤続 6 年

ブライトンというロンドンから南に位置した海岸沿いの街で生活しました。語学学校にはヨーロッパ、南米、中東、アジアなど世界各国から様々な年齢層や背景を持った生徒が英語を学びに集まっていたため、語学学習だけでなく各国の文化や価値観を学べる環境でした。最初は苦労しましたが、毎日英語を使う環境の中で、次第に自然と対応できるようになっていきました。ホームステイではホストファミリーと生活を共にし、英国の生活習慣や食事、文化を直接経験することができました。



【ホストファミリーと記念撮影】

授業後や休日には友人と食事をしたり、さまざまな場所を訪れたりすることで、日本とは異なる文化や価値観にも数多く触れることができました。

留学を通して、語学だけではなく、異なる文化や価値観を知ることができ、自分自身の成長につながったと感じています。今回の留学をゴールとするのではなく、英語を実際の業務で活用できるよう、今後も継続して語学力の向上に取り組んでいきたいと思います。

基本設計部　勤続 5 年

2025 年 10 月から半年間、マンチェスターで生活しました。マンチェスターはイングランド北部に位置するイギリス第3の都市圏で、音楽やフットボールなどの文化が盛んな街として知られています。



【オールドトラッフォード(マンチェスター・ユナイテッドの本拠地)】

英語で英語の授業を受ける毎日は、時には難しさを感じることもありましたが、日本では得ることのできない貴重な経験でした。ホームステイ先でも、さまざまな国籍の学生と生活を共にしました。異なる価値観を持つ人たちが一つ屋根の下で生活する中では、相手に合わせるだけでなく、必要な場面では自分の考えをきちんと伝えることも求められました。滞在中は「今しかできないこと」を意識して行動し、休日にはさまざまな国や地域を訪れ、それぞれが自国の文化を大切にしながら、互いの違いを尊重して生活している姿を実際に見ることができたことも、大きな学びとなりました。留学で得た広い視野と経験を生かし、英語学習を継続するとともに、今後の業務に貢献していきたいと思います。